

## Dialog 9 Asking for information (experience)

### -情報を尋ねる(経験)-

口語訳

Roles: Kei= K, Heinrich= H

Kei is speaking with Heinrich about going to Tokyo Dreamland.

K: Where would you like to go?

H: I'd like to go to Tokyo Dreamland.

K: Oh, Tokyo Dreamland.

H: Have you ever been there?

K: Yes. I've been there four times.

H: Four times? That's a lot!

K: Well, one of my classmates has been there more than twenty times.

H: That's unbelievable! You'd get bored!

K: Not really. It's fun every time.

H: Then I must go at least once.

ケイはハインリッックと東京ドリームランドに行くことについて話しています。

ケ： どこに行きたい？

ハ： 東京ドリームランドに行きたいな。

ケ： ああ、東京ドリームランドね。

ハ： 行ったことがあるの？

ケ： ああ、4回行ったことがあるよ。

ハ： 4回？ そんなに！

ケ： でも、クラスの友達の一人は20回以上行ったことがあるんだって。

ハ： 信じられない！ あきちゃうでしょう！

ケ： そうでもないよ。行くたびに楽しめるよ。

ハ： それじゃあ僕も少なくとも一回は行かなくっちゃ。

## Target Expressions

—経験を尋ねる表現—



このダイアログのポイント  
は「～へ行ったことがある？」  
って質問する時の聞き方よ。

「～へ行ったことがありますか？」と経験を尋ねる時は“Have you been to...?”を使います。...には場所(名詞・固有名詞・副詞)が入ります。

例：Have you been to Tokyo Dreamland?

Yes, I have been there./No, I have not been there.と答えます。(口語ではしばしば“Yes./No.”のみ、あるいは“Yes, I have./No, I have not.”といった短い返答や、“I’ve been there./I haven’t been there.”などの縮約形が使われます。口語ではこれらのよりくだけた表現を使うほうが一般的です。)



## Kei's Advice

～なぜこう訳すの？

“I would like to...”:「～したいものです」丁寧な願望を表します。口語ではしばしば“I'd like to”と略されます。相手の希望を尋ねるには“Would you like to...”を用います。ここでは友達同士の会話なので通常の(丁寧ではない)口調に訳しています。

“That's...”:驚きを表しています。つまり“That's a lot.”「それはたくさんだ!」「そんなにたくさん!」「そんなに!」となります。

“Well”:通常は驚き、疑い、安心、あきらめ、譲歩などを表します。他には話をまた続けたり、用件を切り出す時に用いられます。ここでは「でも、しかし」という意味になります。このように口語ではしばしば“but”の代わりに使われます。

“You'd...”:“You would...”の縮約形です。「君は～するだろう」と訳します。

“Not really.”:この“really”は否定文で表現を和らげる働きをします。直前の発話に対して「本当にそういうわけではない」「そうでもないよ」と答えています。

“It's fun every time.”:「毎回楽しい」つまり「東京ドリームランドに毎回行くたびに楽しい思いができる」「行くたびに楽しめる」となります。

“at least”:「(最も)少なくとも」。通例数詞の前に用います。

Teachers' Only 先生以外閲覧禁止

## 逐語訳

ケイはハインリックと東京ドリームランドに行くことについて話しています。

ケ: 君はどちらへ行きたいのですか？

ハ: 僕は東京ドリームランドに行きたいです。

ケ: ああ、東京ドリームランド。

ハ: 君はこれまでにそこに行ったことがありますか？

ケ: はい。僕はそこに4回行ったことがあります。

ハ: 4回? それはたくさんです!

ケ: えーと、僕のクラスメートの一人はそこに20回以上行ったことがあります。

ハ: それは信じられないです! 君は退屈するでしょう!

ケ: 本当にそういうわけではありません。それは毎回楽しいです。

ハ: それなら僕は少なくとも一回は行かなければならないです。

経験を尋ねる時は“Have you + 過去分詞?”を使います。

例: Have you seen that movie?

君はあの映画を見たことがありますか？

「行く」=“go”から「行ったことがある」=“have gone to”と考えてしまいがちですが、“have gone to...”は通例「～へ行ってしまっ(て戻ってこなか)った」という意味になります。つまり動作の完了・結果を表します。

例: He has gone to America.

彼はアメリカに行ってしまった。

\*ただし、アメリカ英語では“have gone to”が経験を表す場合に用いられることもあります。

他の経験を尋ねる時も“Have you...?”を使うんだね。



Target Expressions

—経験を尋ねる表現—